

8 金管楽器

【金管楽器全般について】

《楽器の構造》

ここでとりあげるHorn, Trumpet, Tromboneは、それぞれ楽器構造の異なる部分もあるが共通する部分も多い。まず楽器は、基本的に次の四つの部分より成っている。

Mouth Piece…奏者の唇と協力して「Reed」となる部分

円筒部～円すい部…長い管を巻いて伸ばしている部分

Bell…管端の「朝顔」の部分

木管楽器同様、音高は管長によって決定されるが、管の形状や太さは下表のように音色に関係する。

管の形状	管の太さ
円筒部が長い⇔円すい部が長い	細い⇔太い
暗い⇔明るい	硬い⇔軟らかい

《金管楽器の発音原理》

金管楽器は「Lip-reed」の楽器である。「Mouth Piece」の助けにより、奏者の口唇が「Reed」になる。Mouth Pieceも楽器によって形が異なる。

Horn…吹口からの奥行きが深い円すい形 (Funnel Mouth Piece)

Trumpet…吹口からの奥行きが浅い半円形 (Cupped Mouth Piece)

Trombone…Trumpetと同型だが深い (Cupped Mouth Piece)
ぜひ実物で見比べてほしい。

○基音と倍音…各管長によって決まる調和倍音列上の音が出せる。(人間の口唇は柔軟であるので、木管楽器とちがいがかなりの高次倍音まで出る)

Horn…第2～第16倍音

Trumpet…第2～第8倍音

Trombone…第2～第10倍音